

令和4年度 自己点検・自己評価結果

※評価指標 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

I 教育理念・目標

評価項目	評価
1. 理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特徴が明確になっているか)	4
2. 学校における職業教育の特色は何か	4
3. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4. 学校の理念・目的・人材育成像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
5. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

II 学校運営

評価項目	評価
1. 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2. 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
3. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
4. 人事・給与に関する制度は整備されているか	4
5. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
6. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
7. 教育活動等に関する情報公開が適正にされているか	4
8. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

III 教育活動

評価項目	評価
1. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
2. 教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4

3. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
5. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
6. 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
7. 授業評価の実施・評価体制はあるか	4
8. 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
10. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12. 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13. 関係分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14. 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4
15. 教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)しているか	4
16. 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えているか	4

IV 学修成果

評価項目	評価
1. 就職率の向上が図られているか	4
2. 資格取得率の向上が図られているか	4
3. 退学率の低減が図られているか	3
4. 卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	3
5. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	3

V 学生支援

評価項目	評価
1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
2. 学生相談に関する体制は整備されているか	4
3. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
6. 学生の生活環境の支援は行われているか	3
7. 保護者と適切に連携しているか	4
8. 卒業生への支援体制はあるか	3
9. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
10. 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4

VI 教育環境

評価項目	評価
1. 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
2. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
3. 防災に対する体制は整備されているか	3

VII 学生の受け入れ募集

評価項目	評価
1. 学生募集活動は、適正に行われているか	4
2. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
3. 学納金は妥当なものとなっているか	4

VIII 財務

評価項目	評価
1. 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	3
2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3. 財政について会計監査が適正に行われているか	4
4. 財務情報公開の体制整備はできているか	4

IX 法令等の遵守

評価項目	評価
1. 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4. 自己評価結果を公開しているか	4
5. 学生や保護者が自由に意見を言える体制が整備されているか	4

X 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
2. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
3. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4

XI 国際交流

評価項目	評価
1. 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	2

2. 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	2
3. 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	2
4. 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2

○学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

1) 看護師に求められる看護実践能力を育成するための教育力の向上

(1) 学生のコミュニケーション能力向上を目指した教育的関わり

- ・講義では、シミュレーション学習やグループワークを取り入れ、看護実践能力の向上と共に、コミュニケーション能力の向上を図った。自分の思考を整理したうえで言語化し、相手に伝える能力向上に向けた取り組みを実践した。
- ・3年次の「看護研究演習」の発表会に2年生が参加できるよう調整し、発表と質疑応答を行った。3年生は実習での経験を明文化・言語化し、論理的に相手に伝えるという機会を得た。2年生は看護研究の発表を聴くことで、疑問点や感想を3年生に伝えられた。
- ・今年度は母体病院の協力もあり、臨地実習をおおよそ計画通り進められた。学生たちは、担当患者とコミュニケーションを十分はかり、情報収集したうえで看護診断や援助を実践していた。実習を進めるうえで実習指導者等と適切な報告・連絡・相談を行うこともできた。
- ・課外活動の「看護を語る会」では、1・3年生混合の小グループを編成し、実習で行った看護についてともに語り合った。3年生は1年生の実習経験を聴き自分たちなりのアドバイスをを行い、1年生は3年生の実習経験を聴き質問しており、他学年とのコミュニケーションを図る機会となった。
- ・課外活動として1年生は「コミュニケーション能力UP講座」を業者に依頼し、基礎看護学実習Iの前に実施した。
- ・日常から教員は学生とのコミュニケーションを積極的にはかり、学生が声をかけやすい環境づくりに努めた。

(2) 学生の主体的行動を推進する教育的関わり

- ・自治会活動や教科外活動では、企画段階は学生の案に対し助言を行い、運営は学生が主体的に行動できるよう支援した。
- ・ボランティア活動は、係を中心に企画を考え実施することができた。また、学校説明会や公開講座へのボランティア募集をしたところ、多くの参加を得られた。学生たちは状況をよく把握し、役割を遂行していた。

(3) 看護技術力を促進するための教育的関わり

- ・演習や学内実習で事例を工夫して看護過程や看護技術をシミュレーションし、振り返る機会を設けた。動画やDVD、書籍等を使って、より臨床看護技術を学べるように工夫した。
- ・1年生の技術習得はチューター制をとり、練習場面から技術チェックまで一貫した指導を心掛けた。
- ・3年生は卒業前に技術練習の機会を設け技術力向上を目指した。しかし、看護技術到達度の分析が遅れ、未達成項目が多かった。

(4) 授業内容・方法の充実

①実習指導の質の担保：実習指導要綱の作成

- ・実習指導要綱の作成はできなかった。
- ・新型コロナウイルスによる影響で学内実習となった場合には、各領域で作成しておいた学内実習用の指導計画を基に実施した。
- ・実習における学生指導の場面の振り返りを行い、教員間で指導方法の検討を行った。

②講義の質の担保：授業案の検討

- ・全教員が研究授業を行い、授業の構成や進め方、教育内容について授業者が参加者と振り返り、学生の興味・関心を促すための教育方法を考える機会となった。1名の教員は外部向けの授業

を実施し、他校からの参加があった。

③看護師国家試験合格率 100%

- ・第 112 回看護師国家試験の合格率は 100%である。3 年生は、定期的に個別面談の実施、夏季休業・冬季休業・自己学習期間には、学生の成績に応じ学習の場の提供や補習講義の実施、精神的支援を行った。また、外部講師と教員による補習講義は好評であった。

2) 高い倫理観と豊かな人間性の醸成

(1) 倫理的視点を重視した教育的関わり

- ・個人情報取り扱いについては、講義や実習、日々の生活の中で指導を行い、意識し行動していた。しかし、一部の学生においては、臨地実習や SNS 上での個人情報の管理について指導が必要なケースがあり、学生個々に合わせた対応、指導をした。指導内容は教員間で共有し、学生の意識を高めることができるよう関わった。

(2) 学生の協働する力の強化

- ・3 年生は実習グループでの臨地実習を通して、自分以外の意見を聞くことの重要性を感じ協働していた。
- ・2 年生は、宣誓式や学生フォーラム、実習を経験し、仲間と協働し達成する力が強化された。
- ・1 年生は基礎看護技術教育においてチューター制を取り入れ、指導教員との日程調整やグループ内での協働学習を自主的に進めていた。基礎看護学実習 I においても、仲間と協力して取り組んでいた。

(3) 学生の創造力を伸ばす

- ・コロナ禍での自治会活動であったが、看護の日やクリスマス会を企画・運営を主体的に行った。
- ・2 年次の特別講演の社会人基礎力講座のひとつとして、創造力についての講義を企画・受講した。
- ・卒業を祝う会では、感謝の気持ちをどのように伝えるかを学生が自ら計画し実施した。

3) 健全な経営と業務の効率化

(1) 入学試験応募者数確保

- ・受験者数は推薦入試、一般入試ともに前年度より減少した。学校説明会等の募集活動を工夫して継続していく。

(2) 勤務時間の適正化

①休憩時間の適切な確保

- ・休憩時間は十分に確保できていないこともある。業務の効率化が課題である。

②会議時間の厳守

- ・会議時間は朝のミーティングで調整、1 時間程度で終了することができていた。

③超過勤務時間の削減

- ・業務が集中する時期には多重課題となり、超過勤務となることもあった。

(3) NHO 就職率 70%以上、県内就職率 90%以上

- ・就職者に対する NHO 就職率は・県内就職率は 97.1%、卒業生に対する NHO 就職率・県内就職率は 94.4%であり、目標を上回ることができた。
- ・大学進学者は 1 名であり、目指す進学先への進路指導を行い、合格することができた。

(4) 学生による卒業時カリキュラム評価全体平均 3.5 以上

- ・全体平均は 3.7 (昨年度 3.4) であり、1 項目以外は全て 3.5 以上であった。
- ・緊急事態宣言や休校期間もなく、予定通りのカリキュラムを履行できた。学生の健康状態に応じて遠隔での授業受講や追実習を行うなど、臨機応変に対応した。
- ・最も低い項目が「わかりやすい授業が多い」であった。講義方法や配布資料等への意見が散見された。